

令和4年度第1回茅野市地域創生総合戦略有識者会議（会議録）

開催日時	令和4年12月2日（金） 午後6時30分から午後7時55分まで		
開催場所	Web会議		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
事務局	1 開会		
市長	2 あいさつ 皆さんこんばんは。日ごろから茅野市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。 さて、地域創生総合戦略は若者に選ばれるまちの実現をテーマに掲げ、令和2年度から取組を進めており、今年度3年目を向かえているところです。総合戦略の大きな目標としては人口減少をできるだけ食い止めることですが、なんとか一定の取組成果は出ているものと感じているところです。 本日は、令和3年度に実施した総合戦略事業の実績報告をさせていただき、加えて、皆様にもご議論をいただいてきたスーパーシティ構想のご報告、現在策定を進めている第6次総合計画についてのご報告申し上げ、それぞれのお立場からご意見をいただければありがたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。		
地域創生課長	3 会議事項 （1）地域再生計画に関する令和3年度分の実績報告について ① 地方創生推進交付金対象事業 資料1 ② 企業版ふるさと納税 資料2 －地域創生課説明－		
企画係主査	（2）第2次茅野市地域創生総合戦略の進行管理について 資料3 －企画課説明－		
D X推進室長	（3）「スーパーシティ」構想の提案にかかる結果報告及び今後の事業展開について 資料4 －D X推進室説明－		
委員	デジタル田園健康特区の目標のところには3自治体の連携による取組を推進するとあるが、茅野市以外の自治体が提案した事業について、茅野市も一緒に取り組んでいくのか、あるいは、まずは提案自治体が取組を進めて、その成果を共有してもらうことになるのか、どちらか。		
D X推進室長	後者のやり方になる。まずは提案した自治体が責任をもって取り組み、実装できた段階で横展開をしていく。その際にはデータについても連携することを目指している。		

企画係主査	(4) これからの茅野市のまちづくりのイメージと総合計画の構成等について 資料 5 －企画課説明－
市長	皆様方に御協力をいただきて策定した地域創生総合戦略をベースに、現在総合計画の策定を進めている。ちなみに、市には様々な計画があるが、総合計画が最上位の計画という位置付け。 説明は以上となりますが、全体を通してご質問ご意見があればお願いします。
委員	第6次総合計画の策定については、10年間の計画期間は長いので5年間にするのは良いと思う。5ページのパートナーシップのまちづくりや公民館活動の見直し、というのは、肯定的に発展させようと思っているのか、手法そのものを考え直したほうが良いと思っているのか、確認したい。 もう1点、8ページに1万年続いた縄文文化とあるが、これまで縄文文化は5千年前と言われてきたように思うがどう考えればよいか。
市長	パートナーシップのまちづくりや公民館活動の見直し、についてお答えする。そもそも茅野市のパートナーシップのまちづくりのベースには公民館活動があったことでうまくいったのではないかという仮説を立てた。かつては各区の公民館活動を通じて様々な形でまちづくりに関わっていただいていたが、そうした経験を持った人が市民団体のメンバーとして集まることでパートナーシップのまちづくりがうまく成り立っていたと思う。ここ最近は公民館活動と各区との関係が希薄になってきてしまっており、そこを改めて見直すことで、パートナーシップのまちづくりも次のステップに進めるのではないかという仮説に立って進めようとしているところ。 縄文文化については、5千年前と言われているのは国宝土偶が作られたと言われている縄文中期のことで、縄文時代そのものは1万以上続いたと言われていることからこのような表現になっている。
委員	公民館活動については、役員の成り手不足の問題などがある一方でNPOができたりもしており、新たな時代になってきたと感じている。見直しをすることには賛成。
委員	第6次総合計画を策定するということが、第5次総合計画のまとめはしないのか。もう1点、デジタル田園健康特区としての茅野市の特徴は何か。
企画課長	第6次総合計画は来年度の策定を予定している。それまでの間に第5次総合計画の評価も行い、その結果も併せて第6次総合計画に反映していく予定。
企画部長	スーパーシティ構想に採択された大阪においては、「空飛ぶ車」というような未来型の都市が提案されたものであった。一方で、茅野市を含む3市町が採択されたデジタル田園健康特区は、地域課題を解決するための計画を提案したことからスーパーシティとは分けて採択された。茅野市の提案は地域課題として健康問題、その中でも特に在宅医療・介護を中心に据えたものであったことから、吉備中央町の救急医療、加賀市の医療データの連携に関する取組と一体となることで相乗効果が生まれ、先進的な取組になると判断されたものと考えている。茅野市においてはこれまで取り組んできた地域包括ケアシステムをベースに、医師、薬剤師、看護師、介護士等の多職種間のデータ連携を進めることで、人

	手が少なくてもこれまでのサービスレベルを維持あるいは向上させるための取組を進めていきたいと考えている。
委員	第5次総合計画の課題などは分かっていると思うので、そのまとめをして第6次総合計画の策定に入っていくことが重要。
市長	当初我々も「第5．5次総合計画」を策定するつもりで審議会にお諮りしたところ、5．5次ではなく6次にすべきという方針をいただいて進めているもの。そのあたりの経過も改めて皆様にも共有させていただきたい。
委員	令和3年度のK P I 実績については、コロナの影響をかなり受けていると思うので、総括が難しいのではないかと感じている。コロナの影響を除いた実績などが分かれば一番良いと思うが、それも難しいものと思う。できる限りの分析をしたうえで、第6次総合計画においてはコロナで落ち込んだ現状の水準は上回って当然であると思うので、そのあたりの影響も十分加味した数値目標にすべきだと思う。デジタル田園健康特区の取組については、我々市民にとっても身近な内容の改革がこれから進んでいくことになると思う。その検討過程もこまめに情報発信していただいて、全国の自治体の中から特区として選ばれて進めている取組であるということが、市民にとっても分かりやすいものとなるようにしてほしい。
委員	地方創生推進交付金を活用した商社の事業に関わらせていただいたタイミングは、ちょうどコロナの影響が大きい時期であったものの、同時にオンラインツールの発展もあって、市役所の8階で行っていた会議がオンラインになるなど、コロナによって進んだ部分もあったように思う。インバウンドなどもコロナの時期は準備期間だと言われていたが、D X もスーパーシティも商社の事業も、この2年間でしっかりと準備ができたのでこれからではないかと思っている。もう1点、コロナもあってどんばんが中止となったり、以前に比べて若い世代がまちづくりや行政に参画する機会が減ってきているように思う。企画段階から関わりたいと思っている人も多いので、そういう機会と、会議に出席して意見を言う機会と分けて、広く募集していただけるとありがたい。
市長	どんばんのようなイベント系は若い世代を中心に企画・実行していただきたいと思っている。一方で、市の計画を作ったり、実施する事業の種類によってはそうはいかないものもあるのでご理解をいただきたい。
委員	第6次総合計画については、確かに世の中の状況が大きく変わってきているので計画を見直すことはよいと思う。D X のようなキーワードについても大事だと思うが、第2次総合戦略に掲げていた若者に選ばれるまちといった大きな方針はブレることなく継続していったほしいと思う。
委員	K P I 実績について、コロナ禍によって逆に移住者数は増えているはずなので、この実績では物足りないように思う。もっと野心的な目標を立てて進めてもよいと思う。若者に選ばれるという点では、何をもって若者か、何をもって選ばれたとするか難しい部分があるが、一つの見方として、生産年齢人口の移住者数によって測ることができるのではないかと思う。これからの計画作りに取り入れていただくことも検討してほしい。

市長	移住定住事業については様々な取組をしているが、ここでグリーンヒルズヴィレッジが完売となった。この４年間で全体の約４０％を販売することができ、一番多かった購入者は３０～４０歳代であった。旭が丘についても残り２区画となっており、住宅団地の販売は順調に進んでいることを報告させていただく。
委員	物流の改革ということで貨客混載によってタクシーに物を載せて運ぶという事業が書かれていたが、ドローンを活用した事業もできないか。規制緩和等の関係で難しい部分もあるかもしれないが、他の自治体でも様々な実証を始めており、できれば新しい技術の活用に向けてチャレンジしてほしい。また、観光分野は「稼げるまち」というカテゴリーにあったが、観光地では２次交通の問題が深刻化しているので対策を盛り込んでもらえるとありがたい。
企画部長	ドローンの活用については、他自治体の事例などを調べているところ。先日視察した伊那市では買い物難民の方向けにインターネットで注文された商品をドローンで届けるといった取組をされていると伺った。コスト面ではまだ採算が取れていないようであったが、車でアクセス難しいような場所に物を届けるにはドローンは非常に有効な手段であると思う。かなり大型のドローンも開発が進んでいると聞くので、今後も検討を進めていきたい。２次交通については、ご承知の通り市街地においてはＡＩ乗合オンデマンド交通「のらぎあ」が運行を開始している。運行エリア外となってしまうのが観光地、別荘地であり、その部分については検討部会を立ち上げて観光事業者や運行事業者と検討を進めているところ。年度内を目安に方向性がお示しできればと考えている。
委員	第６次総合計画について、子育て世代としての感想だが、たくましさやさしさについてはイメージが持てるが、しなやかさについては、変化や困難を乗り越える柔軟性があるが、どのようなすればしなやかさを持った子供を育てることができるのか、難しいと思いながら聞いていた。自分としても考えてみたいと思う。
委員	第６次総合計画について、目的、目標、手段といったイメージ図は、ともすればビジネスの世界においても手段が目的化するようなことがあるので、分かりやすく表現されていてよいと思った。デジタル田園健康特区も一つの手段であると思う。コロナによって医療体制や情報連携の不備が露呈し、また医療分野には岩盤規制があると認識している。それを打破するために特区に選ばれた３自治体で連携して積極的に取り組んでほしい。
市長	委員がおっしゃる通り、特区に指定されても岩盤規制を突破することは容易ではないというのが正直な感想。３自治体が一体となって取り組んでいくことが大事であると認識している。
委員	一番ＤＸが必要で便益が得られるのが地域、医療、教育、中小企業だと言われている。特区の取組もそのあたりを中心にするとういのではないかな。データを活用するにあたっては、データの量が重要。１自治体ではなく他団体のデータも使わせてもらうことで、より正確なサービスの提供ができると思う。若者に選ばれるという観点では、理科大を活用してほしい。なぜ、若者が他地域に出て行ってしまうのか、本当のところを聞いてみる必要がある。交流拠点を作るというのは非常に重要なことだと思っているが、今までとは交流の仕方も変わってきている。若い世代はＬＩＮＥなどのＳＮＳを活用することが多いので、

市長	そういったものを使った情報発信を行えば茅野市に来なくても他地域との交流が可能。まずは知ってもらうことができれば、茅野市は全国的に見ても魅力があると思うので、将来的に訪れてもらえることにもつながると思う。 皆様からいただいたご意見を今後の事業推進に活かしていきたいと思う。本日はありがとうございました。
事務局	4 閉会 (19 : 55) 以上